会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回連絡調整会議 |
| 開催日時 | 令和6年2月26日（月）10:00～12:00 |
| 場所 | YIC学園グループ |
| 出席者 | 事業責任者：岡村　慎一　　　　　　　　　　　　　　　　計1名委　　　員：成底　敏、柳田　祐大、松田　義弘（OL）、泉田　優(OL)、植上　一希（OL）猪俣　昇（OL） 　　　　　　計6名請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計8名 |
| 議題等 | ◯教員概論開発委員会報告（植上）・新人教員向けの教員概論を開発する。・専門学校団体２団体と学校５校について調査を行った。この結果については、画面で共有させてもらうが、追ってスラックで公開する。・量的側面については、現状の都道府県の状況を考えると継続性・連続性について限界点が明らかになった。・質的側面については、専門学校教員としての意義についての研修は行われていない。・TCE財団等では対応が難しいような研修プログラムを開発することが重要である。・テキストを開発することや、ビデオ等も使って方法論なども含めて８時間程度の研修プログラムを開発することとしている。・ワーク等の開発がキーになる。・最終的には、継続的なキャリア形成を自信を持って実施していく人材育成を目標としている。・来年度は、他団体が実施している新人教員研修の比較調査を行う。私たちのプログラムの特徴を明確にしていくことだ。・また、開発するプログラムについてのテスト研修を実施する。福岡の専各連などに協力を得ていきたい。・さらに、このプログラムの普及については、大変重要であると考える。研修の公開方法や素材等について検討していく。――――――――――意見交換・報告動画は何時ごろできるのか？（成底）・パワーポイントの資料は、早めにいただきたい。（岡村）・2月いっぱいを目処で作っていただきたい。（飯塚）・了解した。（植上）・ビデオを作るときの方向性についてご検討いただきたい。LMSを使うのか、ビデオだけ準備するのかなどです。（飯塚）・了解した。（植上）◯授業改善サポーター育成プログラム開発委員会（猪俣）・目的としては、若手教員の授業改善や授業コンサルができる人材育成を目指している。・講座の開発は、資質要件の整理やサンプルセミナーを開催し、ブラッシュアップしていくこととしている。・資質要件の整理は、全専研の学校を対象としたアンケート調査と３校のヒアリング調査を実施した。・このアンケートをもとにサンプル講座を開発し、対面で1回、リフレクションを2回実施した。・次年度への課題としては、以下の５点と考えている。1. 独自性の高いコンテンツを開発すること。
2. 講座展開の標準化。これは講師育成がキーになると考えている。
3. コミュニケーションツールを特定する。Line等の馴染みのあるツールを利用することなどを考えている。
4. 開催時期として最も参加しやすい時期を特定する。
5. 研修の目的を明確化し、学校や受講者に対して積極的に明示していく。

今後は、これら５つの課題について、今回作った教材の見直しをしていく方法を考えている。――――――――――――――意見交換・専門学校版のビデオコンテンツを作成する場合の方法論は何か考えているのか。（成底）・合田委員に協力いただきながら、委員の学校にご協力いただくなどを考えている。また、アンケート等をとることなども考えている。（猪俣）・次年度課題として付け加えるとこの研修の参加対象者に対して、IDをどの程度理解しているのかなどを検討したい。（猪俣）・先ほど飯塚さんからも出ていたが、LMSを利用することも重要だと考えている。（岡村）・中身を変えることは当然ながら、プラットフォームも重要になると考えている。E-learningシステムについては、全専研の大きな枠組みで考えていきたい。（猪俣）・年間の研修回数と方法を明確にしてほしい。（飯塚）・了解した。（猪俣）◯産学連携推進員育成開発委員会（柳田）・目的については、以前からお話ししているのでポイントだけをお話しさせていただくと、各校の事情に合わせたプログラムが開発を検討している。・本年度は資質要件に関するアンケート及び６校へのヒアリング調査を行なった。・アンケート調査、ヒアリング調査、令和5年度事業報告ビデオについては、既に報告書を作成している。・また、進行スライド及びシナリオ案については今年度から開発に着手しておりサンプル版を作成する。・次年度の活動に関しては、本年度の調査結果をもとに講座の開発を行う。・来年度は、手元に配布したスケジュールをもとに実施する予定としている。――――――――――――意見交換・今のスケジュールを見させていただくと、プログラムの開発→ファシリテータ養成という順番で良いのか？（成底）・その通りである。（柳田）・学校側に、誰を受講者として出すことが最前なのかを伝えることが難しそうだ。（成底）・了解した。（柳田）・運用の回し方については気になった。（藤井）・スケジュールを作ってもらってありがたい。テキストと動画の割合等の細かい話が必要だ。実証講座の回数と場所等の特定についても検討してほしい。（岡村）・商業実務と工業の学校ということであるが、この特定は全専研が対象なのか職業実践専門課程なのかによって予算の立案方法が変わってくる。またスケジュールについては、お示しのスケジュールよりは少し早めになることが考えられる。◯研修実施委員会（泉田）今年度は、FD・SDの研修と職マネ・自己点検の４研修を東京・福岡で実施した。・次年度以降については、委員会にて検討していきます。―――――――――意見交換・セミナーの会場の件ですが、福岡でやる根拠をもう少し考えてみてはどうか。西日本地区での募集もいい気がします。（松田）・全専研の姉妹校を考えると福岡あたりは良い気がします。職業実践専門課程に案内を出すことになるとすれば他地域も検討することが必要である。（成底）・内容面と方法の関係、場所と回数の関係については、次年度の委員会について決定していきたい。（泉田）・情報公開の普及促進が予算のベースとなっているので、三菱総研等の方向性も頭に入れておいてください。また、委員などについても考えていただきたい。（岡村） |
| 配布資料 |  |

以上